

第 61 回国立大学図書館協会総会 研究集会
平成 25 年度国立大学図書館協会海外派遣事業(短期)報告 サマリー

IFLA WLIC2013 の参加及びシンガポールの大学図書館の訪問調査

京都大学学術研究支援室
天野絵里子

海外派遣概要

日程：平成 25 年 8 月 15 日(木)～24 日(土)

目的：・IFLA WLIC 2013 でのポスター発表

- ・大学図書館における先進的な取組についての情報収集（研究支援，学習支援，リンクト・データ等）
- ・大学図書館員の専門的人的資源管理についての情報収集（若手ライブラリアン達のグローバルな活動動向）

見学先：Nanyang Technological University (NTU), Singapore Management University

報告概要

渡航中の情報発信

Twitter や Facebook による情報発信が奨励されており、実施した。日本で読む人にとってもリアルさが刺激になったと考えられるが、派遣者にとっても日本からの反応が得られて励みになった。

ポスター・セッション

各国の参加者に九州大学の e リソース管理を報告することができ、また、有意義な情報交換ができた。帰国後も反応があった。

学習支援事例

シンガポールの大学図書館でも学生サポーターを活用しているが、専任のコーディネーターが管理を行っていた。また、専用のアプリ提供など、スマートフォン向けサービスをどこもこぞって提供していた。

研究支援事例

一例として、ニューサウスウェールズ大学図書館では、従来のカウンターや対面の講習会をなくすなどして、研究データ管理等、研究者への直接支援にリソースを割り当てていた。

ソーシャル・メディア

南洋理工大学では、図書館に SNS 等新しいメディアを活用してサービスを行う部署があり、組織や人の単位で Facebook やブログを運用し、また、研究者の成果発信支援などを行っていた。

Linked data

ヨーロッパ諸国では、**Linked data** のサービスでの活用が始まっており、ポンピドゥー・センターなどでの活用事例を聞いた。

コミュニティ活動

Linked data など新しい課題に取り組んだり、若手のキャリア支援ネットワークを作るため、図書館員のグローバルなコミュニティがあり、それを **IFLA** がホストしている

海外派遣事業について

業務の都合上、異動が間近な年度に派遣事業に応募する人が多いため、研修後にすぐに直接業務に活かさないなどの課題がある。海外の大学図書館との連携事業にも活用してはどうか。

以上